

## 大隅良典先生 ノーベル医学・生理学賞

### ご受賞おめでとうございます

2016年度のノーベル医学・生理学賞は、東京工業大学栄誉教授の大隅良典先生に授与されました。大隅先生のご受賞を、心よりお喜び申し上げます。

大隅先生は東京大学教養学部基礎科学科（現 統合自然科学科）のご出身であり、大学院では駒場の生物学教室の今堀和友先生の研究室に所属され、タンパク質の生合成に関する研究をされていました。学位を取得された後、在外博士研究員、東京大学理学部助手・講師を経て、1988年に教養学部にも助教授として着任されました。

駒場に単身で着任された大隅先生は、それまでの研究とはまったく異なった新しいテーマを立てようという決心をされていました。そして当時、謎であった液胞とよばれる細胞内の小器官がもつ分解機能をテーマに選び、誰も思いつかなかった顕微鏡観察という簡単な手法を用いて、酵母を栄養不足で飢餓状態にすると、液胞に小さな粒が次々とたまっていくことを見いだしました。それが今回のノーベル賞の授賞理由である「オートファジー」発見の出発点になったわけです。

1995年に大学院重点化によって広域科学専攻が改組されるまでは、大隅先生も、物理・化学系教員とともに理学系研究科関連理化学専攻に所属されていました。大隅先生は、1996年に基礎生物学研究所に転出されるまで、8年間にわたり駒場の教育に尽力されるとともに、素晴らしい研究成果をあげられました。

大隅先生は基礎科学科を選択された理由として、“新しい境界領域を目指すという学科の理念に共鳴した”と述べられています。また、“人のやらないことをやり、競争をしないで独自のものを出す”といった先生の研究スタイルも、学生時代、および独立した研究者として最初に過ごされた駒場の環境によって培われ、確立したものと思います。大隅先生のご受賞を心からお喜びするとともに、駒場から先生に続く研究者が次々と現れることを願ってやみません。

系長 村田 滋